

# 平成18年 情報通信に関する現状報告 概要

## 『ユビキタスエコノミー』（＝ユビキタスネットワークの進展により生じる社会経済の特質）

### (1) ユビキタスネット社会実現に向けた経済パフォーマンス（マクロレベル）

- 情報通信産業は、情報通信製造業を中心に次第に回復力を強めている。また、実質GDPの変化に対する寄与度は高い。（平成16年の情報通信産業の寄与率は40%。）
- 他方、各産業の情報通信資本ストックの深化は進んでいるが、生産性の向上は未だ顕在化していない。

### (2) ユビキタスネットワークによる社会経済活動への影響（ミクロレベル）

#### ①多様な情報流通社会の実現

通信・放送融合の進展により、利用者ニーズの拡大等が期待される。また、Web2.0等の新潮流により、ロングテール現象（小規模で多様な需要が取りとして実現すること）等が生じたり、ブログ、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）等の消費者発信型メディアの台頭により、多様な知識、意見等の社会への提供、還元が促進される。

#### ②情報ミスマッチの解消

インターネット広告、ポータルサイト、検索エンジン等の進展により、情報供給者と情報需要者のミスマッチが解消され、利用者の満足の上昇や企業の競争力強化等、市場効率性の向上が図られる。

#### ③社会の生産性、人的資本力の向上

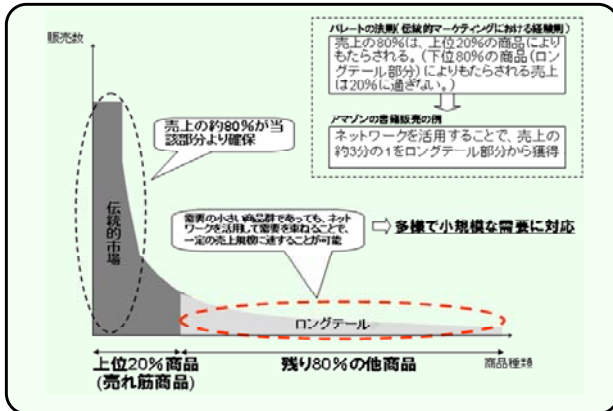
オープンソース化に見られるように、ネットワーク化の進展は、知識の集積や知識に基づく協働（コラボレーション）を容易にし、社会全体の生産力を向上させる可能性がある。また、企業ICT化の進展に伴い、独創性や希少価値を生み出すスペシャリストに対する労働需要が高まる。

※「ユビキタスネットワーク」：いつでも、どこでも、ネットワーク、端末、コンテンツ等を自在に安心して利用できる情報通信ネットワークであり、利用者の生活領域にまで広く浸透することに特色。

### ①多様性 上記(2)①

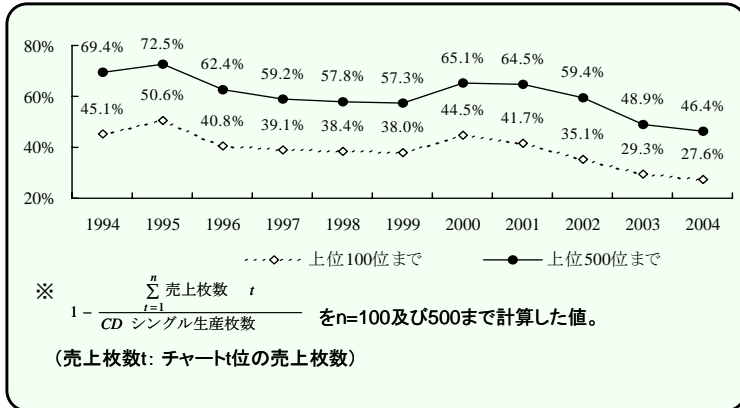
Web2.0の環境下では、多様で小規模な需要が集積し、市場として成立する。（ロングテール現象）  
例えば、アマゾン販売では、通常の書店で在庫を保有することが困難な需要の少ない書籍の売上が全体の3分の1を占める。

図表 ロングテール現象



オリコンチャートの上位曲の売上枚数が生産枚数に占める割合は、低下傾向にあり、多様化が進展している。

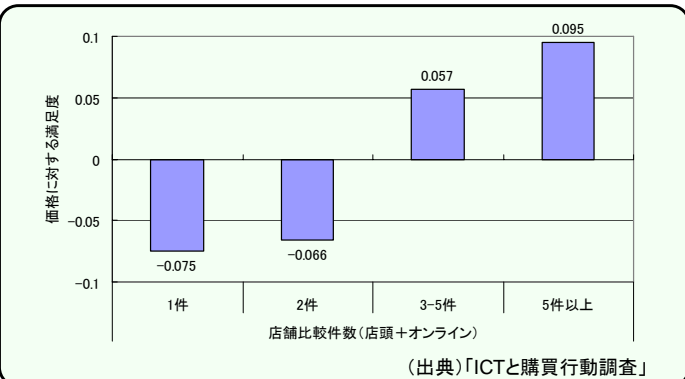
図表 上位100位及び500位の累計売上枚数シェアの推移



### ②効率性 上記(2)②

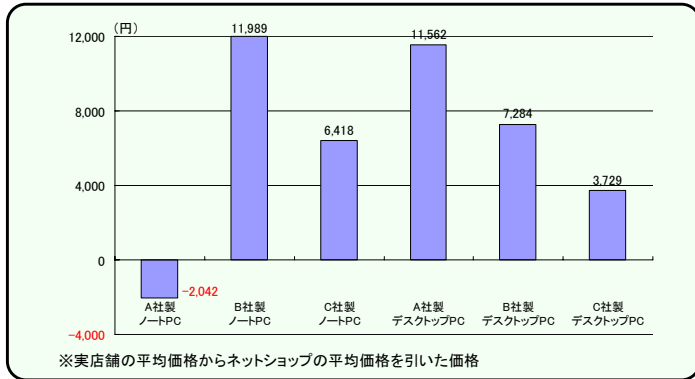
消費者は、インターネットの利用により各店舗の比較が容易となることで、情報ミスマッチの解消が進み、高い満足を獲得できる。

図表 価格満足度と店舗比較件数の関係(平均からの差分)



価格比較サイトやポータルサイトを利用しているネットショップは、実店舗より低い価格を設定しており、市場メカニズムが円滑に機能していることを示唆している。

図表 ネットショップと実店舗の価格の違い

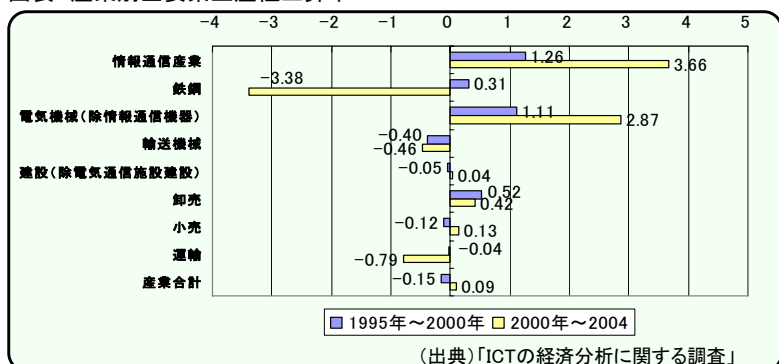


### ③生産性 上記(1)、(2)③

#### 【マクロ分析】

1990年代半ば以降、情報通信資本ストックの深化が進んでいるものの、各産業の生産性（TFP）を見ると、情報通信産業と電気機械を除いて、必ずしも生産性の向上は顕在化していない。

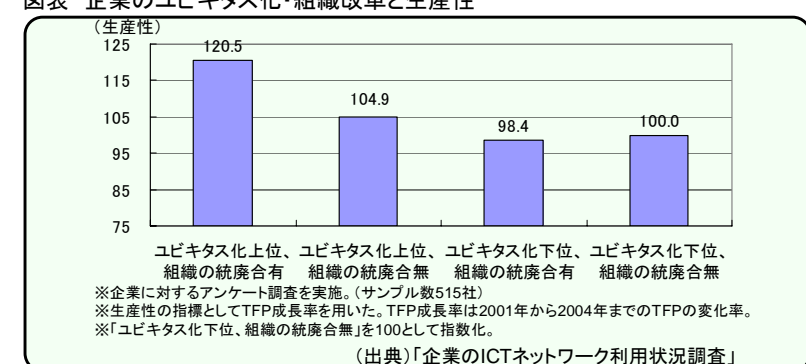
図表 産業別全要素生産性上昇率



#### 【ミクロ分析】

企業のICT化の進展は、組織改革等を伴うことで、生産性の向上につながる。  
→ ICT化による生産性の向上は、今後、組織改革等を伴いながら各産業に波及していくことが考えられる。

図表 企業のユビキタス化・組織改革と生産性



### ユビキタスネット社会実現に向けた課題(いわゆる「影」の問題)

- 情報セキュリティ
- デジタル・ディバイド